

南部町一般廃棄物処理基本計画(案)に関する意見に対する町の方針

	意見	町の方針
1	<p>今回の南部町一般廃棄物処理基本計画は、西部広域基本構想との整合性をはかり作成されていると思われる、そもそも、西部広域の計画自体が、ごみの減量化とリサイクルが非常に不十分なもので、そのことが南部町の計画にも反映している。地球温暖化対策は、国ですら2050年カーボンニュートラルを宣言しており、その点からも、ごみの大幅な減量化とリサイクルは必須の課題である。ごみの減量化とリサイクルを本格的に行えば(全国先進地である鹿児島県大崎町などの取り組みに学び)少なくとも現在のリサイクル率を30%台から70%台のリサイクル率の達成は可能である。その目標をもった計画を立てることは、地球温暖化対策やプラスチックごみの地球環境汚染問題を解決する第一歩になる。(計画のページ26～31の大幅な見直し)</p> <p>具体的には生ごみのたい肥化計画を立てる。(ページ38に挿入)また、プラスチックごみの回収、リサイクル処理の明確化をページ39に記載する。事業所における紙ごみ等の減量化の指導指針を設け、減量目標を数値化すべきである。</p> <p>そして、地域の高齢化に伴いごみを出すことが困難な町民に対して、徳島県の上勝町のように、自宅へのごみ回収施策等も取り入れる必要がある。(ページ41に挿入)また、ごみを朝出すのが難しい町民に対して対応できるような、ごみステーション方式も施策として、ページ41に取り入れるべきである。</p> <p>最後に、西部広域の大型ごみ処理施設と最終処分場の建設は、小規模な自治体には何のメリットもなく、遠くへ運ぶごみ回収経費や、西部広域への均等割り負担を含んだ負担など、後世に大きな町民負担を伴うものであり、計画の見直しを言明することを求めたいと考える。</p>	<p>ご指摘のとおり地球温暖化対策の一つとして、ごみの減量化、リサイクルの推進は重要な課題となっております。本町におきましては、小雑紙、布類の分別収集によるRPF化、生ごみ処理機購入助成による堆肥化の推奨、PTAなどのリサイクル活動に対するリサイクル奨励金の交付などを行っているところであります。リサイクル率につきましては、第9次鳥取県廃棄物処理計画に定める目標値33%を超えるものであり、他市町村の目標値と比較しても低いものではないと考えております。ご提案いただいております具体的な取り組みにつきましては、現時点で当該処理基本計画に記載出来るような施策の検討段階ではありませんので、明記することは困難だと考えますが、いただいた意見を参考に取り組みを検討して行きたいと思っております。(検討が進めば別途定める年度計画への記載も可能となります。)</p> <p>西部広域行政管理組合の処理施設と最終処分場の建設につきましては、当該計画(案)に対するご意見とは異なるため、回答をいたしかねますのでご理解ください。</p>
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>(P1、19) 西部圏域のごみ処理施設の集約化は見直すべき。少なくとも焼却ごみについては、ごみの減量化の徹底で、延命化を図るべき。</li> <li>(P26～31) 減量目標の数値が低い。CO<sub>2</sub>削減問題では、自治体の大きな仕事はごみの減量化だ。積極的な減量目標を持つべき。</li> <li>(P38) 生ごみのたい肥化を各家庭ごとに求めるだけでなく、町が生ごみの回収、たい肥化の計画を持ち、焼却ごみにしない取り組みを強めること。</li> <li>(P39) プラごみの回収、処理が西部広域構想任せになっているが、町独自で、減量化、資源化の目標を設定すべきではないか。</li> <li>(P40) 指定ごみ袋の推進は、資源ごみ回収などの有料化につながる。新たな負担が出ないよう、少なくとも維持を明記すべき。</li> <li>(P40) 事業所の紙ごみはすべて資源回収するよう徹底すべき。</li> <li>(P41) 分別収集の徹底では、常設の回収場所を設けることも含め、出しやすい環境を整えること。</li> <li>(P43) 焼却施設の適正管理では、ごみ減量目標の抜本的見直しをし、延命化計画をも、経済効率性、環境保全性から、再検討すべきではないか。</li> <li>(P43) 最終処分場については、主灰・飛灰の資源化の徹底を優先に考え、規模等考えるべきではないか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ごみ処理施設の集約化の見直しについては、回答しかねますのでご理解ください。焼却ごみの減量化については推進していきます。</li> <li>本町における1人あたりのごみ排出量は鳥取県内市町村の中でも低く(排出量が少ない)これまでの取り組みの成果が反映されていると考えています。しかしながら、ごみ削減の取り組みは必要ですのでリサイクル率の目標値達成のための必要な削減量を目指しています。</li> <li>現時点では生ごみの分別に係る住民負担の観点から分別収集の予定はありません。</li> <li>ごみ処理につきましては、広域行政で行っておりますので、その点からも今後のプラスチック処理についても広域で検討することが妥当と考えております。</li> <li>現時点で新たな負担を求める考えはありませんが、適正な処理のための調査・検討は必要であると考えております。</li> <li>ご意見のとおり資源化を徹底して行きます。</li> <li>常設については現時点で検討に至っておりませんが、集落個別にステーション追加依頼があった際は状況を確認し適宜追加等を行い、環境整備に努めています。ご意見のとおり出しやすい環境整備を進めて行きます。(施策検討が進めば、別途定める年度計画への記載は可能となります。)</li> <li>上記4.同様、ごみ処理を広域行政で行っておりますので、西部広域行政管理組合の方向性に即した計画とする必要があると考えております。</li> <li>本計画には町、住民、事業者が行う役割について記載しておりますのでご理解ください。</li> </ol>
3	<ol style="list-style-type: none"> <li>計画は西部ごみ処理施設の集約化が前提になっている。現状施設の改修、補修等で対応すべきだ。各市町村ごとが最適。(P1、19)</li> <li>ごみ減量目標が低すぎる。ごみ処理の考え方は減量からスタートすべきだ。(P26～31)</li> <li>プラごみの回収、処理、再資源化を(軟プラ、それ以外)もっと明確にする必要がある。(P39)</li> <li>分別収集の徹底について、ステーション(役場、振興協議会、公民館)方式を使い、ごみを出しやすい(日を決めない)方法も考えるべき。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ごみ処理につきましては、広域行政で行っておりますので、西部広域行政管理の方向性を踏まえた計画が妥当と考えております。</li> <li>ご意見のとおり、ごみ処理のスタートは減量であり、いらぬものは買わないという考えです。本町における1人あたりのごみ排出量は鳥取県内市町村の中でも低く(排出量が少ない)これまでの取り組みの成果が反映されていると考えています。従いまして、目標値につきましては、リサイクル率の目標値達成のための必要な削減量を目指しています。</li> <li>ごみ処理につきましては、広域行政で行っておりますので、その点からも今後のプラスチック処理についても広域で検討することが妥当と考えております。</li> <li>分別収集の徹底のための施策検討は必要だと考えますが、各拠点単位での収集については現時点で検討に至っておりませんので計画への記載は困難です。(施策検討が進めば、別途定める年度計画への記載は可能となります。)</li> </ol>
4	<ol style="list-style-type: none"> <li>西部地区で計画中の大型施設には町の参加を止め、南部伯耆の2町で運用しているクリーンセンターの長期利用を図ること。</li> <li>生ごみの堆肥化は町が主体として行うこと。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>本計画は現在おこなっている広域行政でのごみ処理の今後の方向性を踏まえた「本町におけるごみ処理の方針」を定めるものです。クリーンセンターについては、現在の広域行政のスタンスを勘案したうえで、適正な維持管理を行うこととしております。</li> <li>現時点では生ごみの分別に係る住民負担の観点から分別収集の予定はありません。</li> </ol>